

《宮内氏像》のはぐみ

武井 敏

令和二年度に寄贈された《宮内氏像》(図1)をじっくり観察すると、ブロンズ像の胸部に写真のようなスジ状のものが確認される(図2、図3)。これは石膏原型には確認できないもののため(図4、図5)、日頃お世話になっている阪井鋳金所にたずねてみると、铸造の際に生じる「はぐみ」と考えられるとのこと。「はぐみ」は鋳型を焼成する際に生じる鋳型の合わせ目の食い違いのことで、修正するのが現在の通例である。そして、同じ原型を使って再度鋳造を試みても同一の「はぐみ」が生じることはないため、個体を識別する印とみなせうるとご教示いただいた。

このブロンズ像は一九一〇年に日英博覧会に出品されたものと伝わっており、この博覧会の際に刊行された日英博覧会事務局編『日英博覧会新美術出品図録』(審美書院、

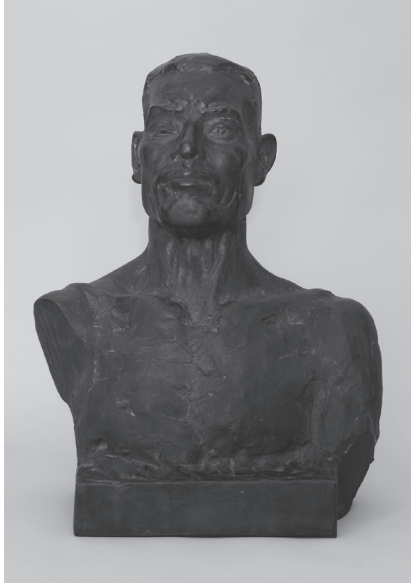


図1 《宮内氏像》ブロンズ

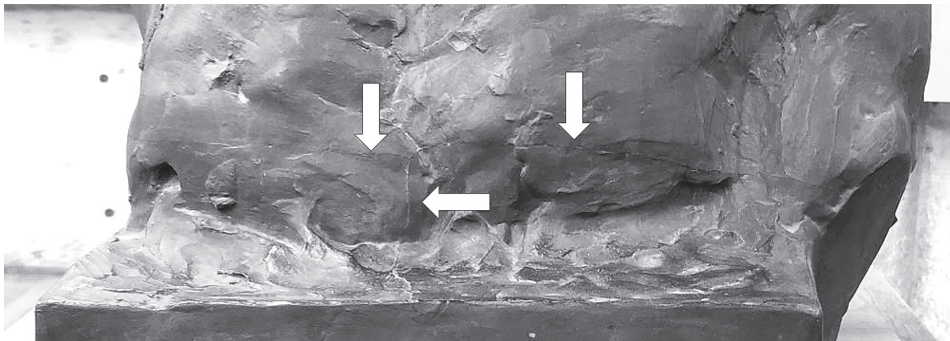


図2 《宮内氏像》ブロンズ部分(矢印著者)



図3 《宮内氏像》ブロンズ部分(図2の強調)

一九一〇年)に写真が掲載されている(図6)。この写真をよく見ると、図1、2、3と同じスジ状のものが確認できる(図7)。このこ



図6 《宮内氏像》の写真



図4 《宮内氏像》石膏原型

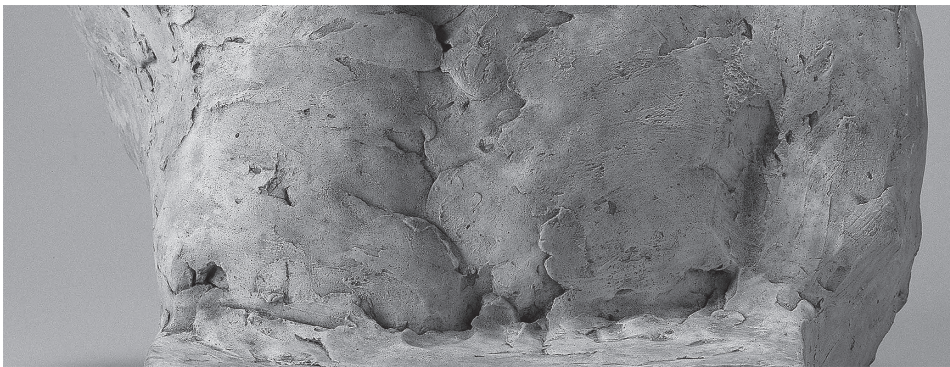


図5 《宮内氏像》石膏原型部分

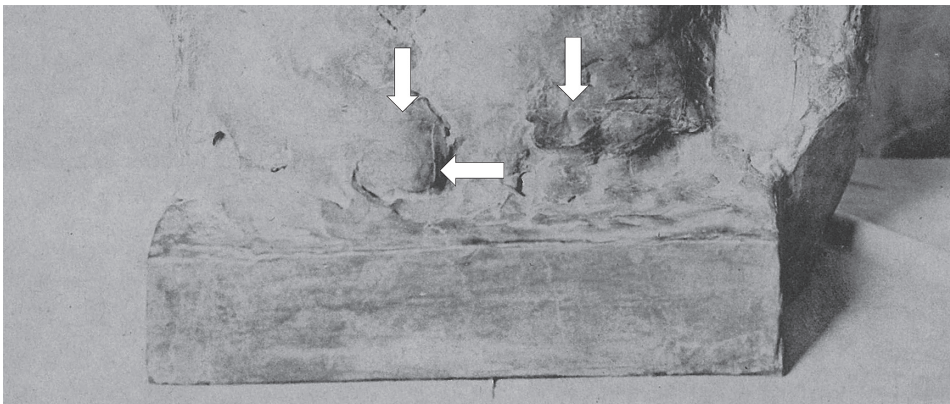


図7 《宮内氏像》の写真の拡大 (矢印著者)

とから、寄贈された《宮内氏像》は、萩原の生前に鑄造され、萩原の手
によって日英博覧会に出品されたものと同定できる。
本ブロンズ像は所在のわからない時期があるものの来歴がしつかりし

ているため、生前鑄造であることは疑っていなかったが、一九二〇年の
写真との比較により、間違いなく生前鑄造であることが確認できた。
「はぐみ」についてご教示いただいた阪井鑄金所に感謝したい。